

唆されている。最近私共は、グルココルチコイドが autocrine 調節因子の1つであることを明らかにした。

仔牛血清中には抗ヒト EGF 抗体と交差反応する分子が存在するため、通常 HSG 細胞の培養に用いている 5%血清添加培地から HSG 細胞の産生する EGF 様分子を精製することは困難である。そこで本研究では、HSG 細胞の無血清培養により得られた培養上清から、アフィニティークロマトグラフィーを用いて EGF 様分子の精製を試みた。

HSG 細胞を最終的に 1%血清添加培地に馴下させ、無血清完全合成培地、SFM-101培地に移した。この培地中で4週間継代後、安定に増殖する株を得、これを HSG-SF 細胞と称した。

次に親株 HSG 細胞を [³⁵S]メチオニン標識し、細胞ならびに培養上清から、抗ヒト EGF 抗体により認識される分子をプロテイン A 法により分離した。この分子を SDS-PAGE にて展開しフルオログラフィーを行った結果、細胞内より 64k、培養上清より 57k と 46k の EGF 様分子が検出された。

一方、HSG-SF 細胞の培養上清から、抗 EGF 抗体を固定化したアフィニティークラムを用いて、これと結合する分子を精製した。この標品を SDS-PAGE で展開後、銀染色法を行ったところ 46k の単一バンドが検出された。この EGF 様分子を親株 HSG 細胞へ添加すると、1-2ng/ml と低濃度で HSG 細胞の増殖を 36% 上昇させることが示された。これらのことからこの EGF 様分子は、分子量約 6,000 の EGF の HSG 細胞に対する増殖促進効果に匹敵する生理作用を有することが判明した。

[結果] HSG 細胞の無血清培養法を確立することにより、HSG 細胞の合成する分子量 46k の EGF 様分子を精製した。この分子は親株 HSG 細胞の増殖を促進させることにより、HSG 細胞増殖における autocrine 調節の存在が確認された。

演題15. 転移性頸部リンパ節に対する超音波診断の正診率について

○小豆島正典, 鈴木美智恵, 大友 千里,
坂巻 公男, 武田 泰典*

岩手医科大学歯学部歯科放射線学講座
岩手医科大学歯学部口腔病理学講座*

頭頸部悪性腫瘍の治療成績を左右する要因の一つ

として、所属リンパ節の転移の制御があげられる。リンパ節 (LN) の画像診断として超音波検査は non invasive であること、検査が容易であることから装置の分解能の向上とともに重要性が増してきている。今回我々は頭頸部悪性腫瘍を対象に超音波像の retrospective study を行い、正診率について検討した。

対象症例は頭頸部悪性腫瘍患者150例中、リンパ節摘出術が行われ病理所見が得られた患者60症例、194個の LN である。超音波装置は横河メディカル RT2000 と RT2600 でプローブは 5 MHz あるいは 7.5 MHz を用いた。正診率は超音波検査で検出された LN はすべて画像診断上 metastatic LN と仮定して算出した。LN の大きさが 5 mm 未満のものは対象症例から除外した。

<成績> True positive rate (TPR) は LN の大きさが 10mm 未満で 24%、10mm 以上で 84% となり、10mm 未満の TPR は極めて低かった。形態が扁平なものでは 20個中 19個が病理判定で negative であり、false positive rate は非常に高かった。

10mm 以上の LN を対象とすると、境界が不明瞭な LN の TPR は 92% と、境界明瞭な LN (TPR 64%) と比較し高かった。内部エコーの均一性は TPR の向上に繋げなかった。顎下リンパ節、上内深頸リンパ節、中内深頸リンパ節は検出された LN 数は多かったが、他の所属リンパ節と比較して False positive rate が高かった。

False negative のリンパ節は 11個あった。それらの多くは大きさが 5 mm 以上で extra-nodal spread があるもの、あるいは LN の fibrous change があるものがほとんどであった。また過去に放射線治療を受けた患者、あるいは肥満 type の患者にも False negative case が多かった。

演題16. 術後性上顎嚢胞患者の周術期の循環動態の変動

— 高血圧患者と正常血圧患者の比較 —

○佐藤 雄治, 水間 謙三, 石川 義人,
小野 実*, 藤根 浩樹, 野館 孝之,
藤岡 幸雄, 岡田 一敏**, 涌沢 玲児**

岩手医科大学歯学部口腔外科学第一講座
岩手医科大学歯学部口腔外科学第二講座*
岩手医科大学医学部麻酔学講座**